



# 明善同窓会関東支部 会報

発行：明善同窓会関東支部  
会報発行委員会  
事務局：世田谷区上馬 1-13-3  
電話：03-3421-6071



## 新校長着任のご挨拶



第二十二代 校長 石井 利男

明善同窓会関東支部の皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

春も盛りを迎え、中庭では、創立130周年を記念してこの二月に贈呈していただきました彫刻家齋田清二先輩による「叡智」と題する真新しい少女像が新緑の光を浴びて輝いています。先日その中庭でオーケストラ部によるガーデンコンサートが催され、多くの生徒、職員が管弦楽の調べを楽しみました。学校のほうでは、新学期の慌ただしさも一段落し、生徒、職員が充実した毎日を送っています。

さて、私はこの4月1日に明善高校校長として着任いたしました石井と申します。今回で明善高校には三度お世話になることになりました。一度目は生徒の時で、昭和45年に卒業しました。二度目は駆け出しの教師として、昭和57年から平成2年まで8年間勤めさせていただきました。そしてこのたび母校に戻ってきました。高校時代と青年教師時代という多感な時期に私を育ててくれた明善高校で再び働くことができ、天の巡り合わせに感謝いたしております。それと同時に、今や筑後地区のみならず福岡県下の高等学校の雄として、着実に発展しつつあり、また、本年130周年記念式典を実施することになる明善高校の校長という職の重みを日々ひしひしと感じているところです。

私は、明善高校において社会に貢献出来る逞しいリーダーを育成したいと考えております。確かな学力は言うに及ばず、豊かな人間性の育成をとおして人格の完成を図るとともに、大人の道をあゆむ、志高く、自律心と思ひやりのある心を持った人間の育成を目指します。そのために、校是である文武両道のもと、子弟同行の指導をとおして生徒の資質・能力に相応しい学力・体力・意欲を育成します。そして、生徒に大きな志を抱かせ、その夢の実現に向けて思う存分邁進させたいと考えております。

結果として、同窓の方々が皆々として築かれてこられた明善の名をさらに確固たるものに高める人材が輩出できれば無上の喜びであります。そのためには全国におられる明善同窓会の皆様のご支援が不可欠でございます。何とぞご厚情賜りますようお願い申し上げます。

## 明善同窓会関東支部の発展を祈ります



前校長 古賀 俊一

明善同窓会関東支部の皆様におかれましては、益々ご活躍のことと拝察いたします。昨年は関東支部同窓会にお招きいただき歓迎していただきました。加えて、夏の陸上・秋の弁論と二度に亘る定時制生徒の全国大会出場の際にも応援いただきました。弁論大会の折には、偶々開催されました東大球場での秋田高校とのOB戦で始球式をさせていただき榮誉に浴し、母校そして後輩に対する熱い思いをいただき感激しました。お陰をもちまして全国大会の成果も立派なものでした。

期待していただいております後輩の進路状況は、目標を持ち着実に実績を積み重ねております。百三十年の歴史と伝統にふさわしく、福岡県ひいては西日本の雄としての地歩を、しっかりと固めつつある状況にあると考えております。今後、おそらく関東における皆様の一員として、直接ご指導いただく卒業生も増えていくものと期待しております。そこで学校における教育活動も、効果的にパワーアップして考えていくこととしました。特に、国際化時代にふさわしく修学旅行を、これまで英国を目的地として実施し成果を挙げましたが、諸般の事情もあり、今年から目を国内に向け、関東・東北の国内をその目的地とし、奥の細道などの日本文化再発見をすることで、日本遺産を確認するなどを旨とすることとしました。

世の中は否応なく国際社会の渦中に組み込まれており、国際化をすすめる中では相互理解は大切なことです。そして外国文化に関心を持って受容していくことは大切なことですが、その一方で他国のことばかりに目を向けすぎることで、足許にあるわが国固有の素晴らしさを知ることに疎かになつてはならず、しっかりと認めていくことでわが国の素晴らしさを、誇りを持って語ることの必要性をも痛感した次第です。生徒諸君はおそらくその意を汲んで成長してくれるものと存じます。

さて、私はこの三月で定年退職しました。三十六年余の教師生活を無事に終えることができましたのは皆様のおかげです。感謝しております。

四月からは、柳川市にあります生涯学習振興財団から事務長として、高校生を対象にした、「大志を持つ」青少年の育成を主に図って欲しいとお誘いをいただきました。そこで、微力ではありますが社会に貢献したいと考えまして勤務しております。

末尾ながら、明善同窓会関東支部の御発展を祈りつつ欄筆させていただきます。

## 明善同窓会 会長ご挨拶

同窓会長 41年卒 真木 大樹

明善同窓会関東支部の皆様には、いつもながら明善同窓会のことにつきましてご協力とご指導をいただいておりますこと、衷心より厚く御礼申し上げます。

さて、母校明善高校は、前任の古賀校長先生が定年退職されましたが、今年度より石井校長先生をお迎えし、新しい体制で進んでおります。石井校長先生は明善高校昭和45年卒の同窓であり、着任早々今年10月31日(土)に迎えます創立130周年の記念事業に取り組んでいただいております。同窓会と致しましても130周年事業を成功させるべく協力致してまいりたいと思っております。

また、今年の大同窓会は10月11日(日)に昭和49年卒の皆様のご臨席を賜りますようお願い申し上げます。久留米までの交通の便が更に改善され、東京と久留米が距離を感じなくなりつつあります。平成23年春には九州新幹線鹿児島ルートも全線開通し、関東からの帰省も益々便利になります。JR久留米駅の新幹線ホームも順調に工事が進んでおり、駅前には地上35階建てのマンションも来年春に完成と聞いております。いよいよ明善高校の周囲も様変わりしている現況であり、久しぶりに故郷の久留米に帰ってみたいかがでしうか。

関東支部の益々のご発展と会員各位のご健勝ご多幸をお祈り致しております。

## 第42回明善大同窓会 開催決定

○日時 平成21年10月11日(日) 14時30分開始予定

○場所 創世(久留米市柳原町)

○テーマ 「繋がる世代・通じる心(130年)」

今年度の大同窓会は10月11日(日)に決定し、その企画・準備の真つ最中です。今年度は明善校開校130年にあたり、明善高校の歴史や伝統を御出席の皆様にご一度思い出さしていただき一同の心が一緒になり世代の垣根がとれるような大同窓会にしたいと考えています。

49年卒業生一同、心からのおもてなしをお迎えいたします。時間や都合のつかれるかたは是非ご参加をお願いいたします。学生時代を思い出していただき、仲間、先輩、後輩と一緒に楽しい時間を楽しんでください。大同窓会をきっかけに旧友と再会し親交を深めていただいたり、母校の姿を久しぶりに見られれば必ず感激されるものと思えます。

(実行委員長 49年卒 新郷 比佐支)



「行在所」と傘寿の同窓会

もはや死語になっていくかとも思える語に「行在所」(あんないしよ)というのがある。天皇の旅先での仮のお住まいという言葉である。明治時代の天皇の旅行といえは、お召列車であった。お召列車も今では交通博物館でしか、見ることができないが。

お召列車の歴史によると、明治44年(1911年)11月10日、門司から久留米駅に到着。県立中学明善校を大本営にと記されている。翌日、久留米へ羽犬塚へ久留米で大演習を統監。翌々日、再び久留米から荒木へ久留米。下広川村で大演習を統監。16日久留米から門司に向かわれている。その間、五日間中学明善校の「行在所」に滞在されていたことになる。この行在所は戦時中、聖域として近付くこともできない建物であった。

その行在所を空襲から守りすべく命じられたのが、今年傘寿を迎える我々であった。

戦中戦後派の我々は中学3年の時、勤労動員にかり出され、250名の仲間がそれぞれ学級ごとに、日本ゴム、旭製鋼、日華ゴム、西鉄の職場で働かされたのである。

我々日華ゴムでは、行在所に近いということで特別に班が編成され、敵機の警戒警報が発令されるや、直ちに工場の作業を中止して行在所に駆けつけけるのである。防火用水に荒縄を先端に括りつけた棒を浸して焼夷弾から行在所を守るべく庭先で待機する。

我々の学年は戦時中の体験が各学級によって異なるため、学級ごとの同窓会の方が集まりやすい。早い話がゴムと西鉄電車と製鋼所ではまったく経験が違っているの、話がかみ合わないのだ。

一昨年、校長先生に特別の許可をいただいて我々は初めて行在所の中に入れて頂いた。感無量であった。

今年も五月、星野村の星野温泉池の山荘で同窓会を開く。行在所の警護から六十四年を経た傘寿の同窓会である。

(21年卒 植原 茂則)

明善35年ごころ

平成20年10月4日(土)に2年振りに同窓会どうしよる会を開催した。2年振りということもあり、参加人数が少なくなる傾向にある一泊旅行は避け、都心ホテルでのパーティ形式としました。

場所の選定には毎回悩みますが、今回は歳相応の会として工夫を凝らしました。そろそろ階段の昇り降りが気になる年齢にもなりましたし、関東周辺の各地から集合するのにも交通の便が良い東京駅近くの「八重洲富士屋ホテル」で一、二次会とも行うこととしました。開催の時間帯も悩



感動する心を持つとう「美しく老いる」テーマに41年同期会

東京のサクラが真っ盛りを迎えた4月11日、首都圏在住者を中心とした昭和41年卒業生の同期会「よいかい」の例会が、皇居・大手堀に面したKKRホテル東京で開かれた。

出席者は女性13人を含め37人。イベントが盛りだくさんだった昨年の還暦記念の会に比べ大幅に減ったものの、「よいかい」を立ち上げた故原武司さんご家族も交え、最後まで笑いの絶えない楽しい春の一夜を過ごした。

還暦も1年を過ぎて、新たな人生のサイクルも軌道に乗り始めたといわれる今、今後どんな生き方をしようとしているのか。今回は「美しく老いる」をテーマに、それぞれの生活の一端を垣間見せてもらうことにした。

司会は昨年好評だった熊丸善夫さんと古賀啓子さん。梁井俊男幹事長のあいさつ、乾杯に続き、旅行作家協会の会員でもある中野洋一さんがテーマに沿って「特別講話

の種ですが、年齢的なこと及び遠方から来る人を考慮して昼間を中心に行いました。更には、「同窓会中は仲の良い特定の人とばかり話をし、他の人と話す時間が無かった。」という贅沢な悩みを考慮して、一次会の時間を多くしました。

一次会はたっぷり3時間で、余興としては、お米券(三千円分)・図書カード(五千円分)・商品券(一万円分)の争奪戦(ジャンケン大会)でおおいに盛り上がり、負けた人にも全員に100円ショップで買った脳トレの本を配布しました。また短時間でカラオケを行い往年の美声を披露。最後に集合写真の撮影で終了しています。

二次会は同ホテルの別室で2時間。歓談とカラオケで過ごしました。以前とは異なりカラオケは女性の方が積極的に感じました。

会計を済ませホテルのロビーに下りると、別れを惜しみ大多数の人が同ホテルの喫茶店に席を移し、自主的な3次会に更に1時間強を費やしました。

昭和35年の卒業生は100名弱が関東に在住しています。今回の出席者は25人(男14人、女11人)。特筆すべき出席者としては米国1名、九州1名を含みます。

収支的には、会の費用に多少の残金があり、景品代、二次会費の女性優遇、喫茶店代は会費以外で賄っています。従って実質的には赤字です。

今後の課題としては、常連だった出席者も帰省及び病气や介護で出席不能となり、全体としての出席者が漸減傾向です。歯止め策あるいは増加策が無いものか思案中です。

(35年卒業 玉井 直之)



を行った。

「人生は一度だけ」「豊かな人生は感動の集積」。サラリーマン川柳で定年を迎えた団塊世代の現状を説き起こし、プラトンやミル、貝原益軒や茂木健一郎など古今東西の思想家などの名言を引

き合いにして、これからの人生では、生き甲斐や感動、そして心の平安を求めて能動的に生きていくことが幸福につながる

と指摘。さらに「せっかくこの世に生を受けたのだから、最期に『ああ、面白かった』と言っておさらばしたい」と述べ、「面白きこともなき世を面白く」との坂本龍馬の言葉を紹介しながら「感動多き豊かな人生を送られんことを」とエールを送った。

この後、熊丸さんが「どげんすつと？」と突撃インタビュー。「なにかやりたい」と抱負を語れば、現役時代の思い出を披露する者。「かみさんとゴルフや買い物、散歩の日々」と家族サービスに及べば、ボランティア活動への取り組みを表明する声も。「女性も母親として大きな仕事をしている」とは女性の声。また第一線で活躍中の現役組からも近況が語られ、発言者の一言一言に共感の声と歓声が上がっていた。

最後に校歌を斉唱、来春に元気に再会することを約し、ほぼ全員が二次会へとなだれ込んだ。

(41年卒 松本 紀生)



私の健康法

卓球の効用・元気なみなもと

日頃は、公認会計士・税理士業務で、脳細胞の活性化に前向きに行動しています。徒歩5分の地区センターに卓球台が約15台あり、毎週日曜日、3時間程度卓球を仲間と汗を流して楽しんでます。

卓球は、脳の血流を増加させ脳を活性化させ、ボケ防止、脳のリハビリには最高と、また眼の老化防止にも大変良いと言われています。

卓球をする人には、車を運転しても、事故を起こさないとされています。理由は、前後左右に眼を動かせる動作が自然に出来るようになる為だと「テレビ・新聞等報道・眼の専門医師の言」

運動した後のコーヒー(またはビール)一杯がたまらなく美味しいものです。仲間の最長年者は、85歳の男性です。大極拳も約100名の男女の仲間と練習しています。最長年者は、姿勢もよく、顔色もいい90歳の男性には、皆感心しています。

一生青春・生涯現役、前向きな行動が「元気なみなもと」のようです。前向きな気持・行動で、私もお陰様で元気になり、お会いして話題に参加することこそ「元気なみなもと」と思い、皆様に感謝しております。

(28年卒 飛永 信雄)

皆それぞれに年を取っているのが分かります。今年、ちょうど我々の大部分が還暦を迎える年となりました。そこで、還暦センチメンタルジャーニーでもどうかという事になり、企画を立て始めたところです。今回は少し贅沢に、遠出をして美味しいものを食べようかと、一泊二日の観光旅行兼ゴルフコンペでもかかっています。

一泊する場合女性車はどうするのか。連れていくのか、ついてくるのか。60歳のジジ、ババのセンチメンタルジャーニー、考えるだけでも楽しいというより、なんだか可笑しく思わす笑いたくありません。

来以降もまた続けていくことになるでしょうが、古希の時はどうなるのだろうか、考えるのは、考え過ぎというものでしょうか、70歳のジジ、ババの同窓会を想像すると少し怖いような気がします。

(43年卒 津城 俊幸)



還暦センチメンタルジャーニー 43会の来し方行く末

第1回目の43年卒の同期会を「43会」という変わり映えのしない、平凡な名前前で始めたのは、そしてその名付け親は確か、自体重0.1トンの水泳部の内田充昭君だったと思

います。平成元年3月12日、半蔵門の福岡会館でした。たぶん自称0.1トン君からの誘いだったと思えますが、私もその時から参加して、皆勤しています。

それから平成の御世とともに、途切れることなく今年めでたく21回目を迎えることになりました。平成元年に第1回目というのは今回調べてみてはじめて分かったのですが、今にして思えばまさに絶妙のタイミングだったと言

関東69会雑感

我が関東在住の69会(1969年、昭和44年卒業)メンバーは約80名になる、450名の卒業生中の20%弱が関東近辺に集まっているのだから実に不思議である。

明善を出て40年になる、年に2回の同窓会を開いているが何時も20〜30人が参加して結構な盛況である、子育てを終え今でも女盛りだと思いつけている婦人と、企業人、役人として若干上がりに近づいて公私共に余裕が出てきた今も青春の中年が集いつている感じである。

地方出身の同輩から聞いても中々この割合で東京に集って同じ学年で30人近い同級生が毎回集まる高校は実に貴重で皆無らしい。

数年前から年に2回春と秋に69会有志で同窓会ゴルフをするようになった、それまでは明善の運動部仲間の数人が誘い合って都合のいい時に集っていたが友人の死に直面し葬式の帰りに俺たちもあと何年ゴルフが出来るだろうかと言おうような寂寥感の中からは何となく春と秋に泊り掛

2008年9月 東京

2008年9月20日夜。残暑の余韻が、まだそこここに感じられる頃であった。西新宿にある高層ビルの54階の一角を西国の方言が占拠した。その抑揚は、決して高層ビルのたたずまいのように静かではない。しかし、熱気がさ迷う新宿のように熱くもない。暖かくそして柔らかであった。母が使っていた言葉である。そして自分を育てた言葉であった。

そんな言葉に誘い込まれるように中へ進むと、そこでは、見覚えのあるあの顔の顔がニコニコと談笑していた。多くは、京都以来1年ぶりの面々だが、卒業以来初めての顔もあった。50名ほどの同級生が、九州から、関西から、東海から、東北からそして関東から今年も集まった。

今回はシャインズの演奏のような催し物はなかったのが、食事をしながらあちこちで旧交を温める会話が進んでいった。長い年月は、さまざまなものを変えたが、長い年月も変えることのできないものがあることを実感した夜だった。窓の外は、しじまを知らない都会のともしびが、赤く青くあるいは黄色く瞬いていた。しかし、部屋の中では、それに負けず劣らず、輝くみんなの顔があった。

いつの間にか学生服を着ていたころの顔が、中年おやじの顔にかぶさる。白いブラウスに紐タイの上で微笑んでいた顔も、たちまちよみがえってきた。

若いころの1年は濃厚だった。当たり前だ。1/18と1/57の違いだ。高校時代の3年は人生の1/6。今の10年に相当するのだ。そんな話をした。

どうしても思いたせなかった、南校舎の食堂で売っていたあのチェリオの味が、急に口に広がった。あつという間に、時は過ぎ去っていった。

翌日は朝9時集合。場所は八重洲富士屋旅館前の駐車場。今回のメインイベントである東京観光だ。「大江戸はく」とふるツアー」と銘打って、バスを貸し切ることとなっていた。出発前からもうバスの中は修学旅行気分である。あちこ

けで集る事にしようと思いついた。毎回準備はそれ程周到ではない、

前々回は発案から決定まで1週間程で開催日、場所、メンバーが決定した、実はこれが我が69会の自慢である、同じ時間を共有してきた結束力の強さだと思ふ。同期のゴルフばい、役員会

富士山の麓で09年春のコンペを行った、ラウンドしながら明善高校卒業時の同じ季節に思いを馳せた、あの時誰が40年後富士山を見ながらゴルフを楽しむ姿を想像できたであろうかと、キャ

デーさんは東京から来た客が何故か九州弁丸出しで大騒ぎしている事に不思議がっていた。写真は静岡の富岳ゴルフクラブにて。前日までの雨が嘘の様に晴れ上がり我々を歓迎してくれた、誰ももなく、この景色は金ではかえんばい。

ちでたわいもない冗談ではしゃぐ声が響く。40年前の修学旅行と違うのは、ビールが積み込まれていたことであろうか。そしてバスは、お決まりの皇居前広場に到着。二重橋前まで記念写真。すっかりおのほろさん気分である。考えてみると日比谷通りは何度も通っているのだが、皇居前広場はそれこそ修学旅行以来ではなからうか。

つづいてバスは、われわれを日の出橋に運び、東京湾クルージングランチを楽しむことに。船尾の広い一室を我々だけで借り切るバイキングデイナーを楽しむことができた。あいにくの雨ではあったが、東京湾から見ると、色々の東京も悪くはない。雨はあのとげとげしい東京を、すっかりやさしくオブラートに包んでいる。

クルーズが終わると、東京観光の定番である東京タワーからの都内展望を楽しみ、さらに浅草に向かった。ここは東京でも独特の雰囲気を持っている。外人や観光客相手のさまざまな面白いおみやげ物。ウエディングドレスを着た女性が行き交っている。どうやら何か広告用のスチール写真を撮っているようだ。そしてあの大らかな雷門の提灯。

そして2日目も時は進んでいく。とうとう解散の時間が迫ってきた。バスはこれから東京駅へ向かう。そしてそこで解散だ。あつという間だった。このままみんなと別れて帰るのではなくもう少し解散を延ばしてもいいのじゃないかなと思ったりした。それまで、小ぶりだった雨が、突然、大降りになったせいだけでもなさそうだった。

(45年卒 井上 正則)



明善46会 思案の時

まだ昭和の頃、明善同窓会関東支部の幹事から、監査役就任の依頼電話が突然掛ってきた。元国税長官で当時参議院議員であった福田幸弘先輩が亡くなったのを機に、少し若返ろうとの事であった。

この少し前、同期の山下博文から同期名簿作成中の連絡が入った、私の父が明善の90周年記念名簿編集委員だったことで、私の東京での住所、職業が判っていたためらしい。明善46会の誕生である。ここから、本格的な同期の名簿作成が始まった。十数名から出発した名簿も、新しく判明した同期生から、新たな、しかし不確かな情報が入ってくる。勤務先さえ判れば本人と連絡が取れるようにしてくれたり、教えてくれたものだ。こうして今では転勤して行った者で帰ってきそうな者や、関西等地方からでも参加する者を含め80名程が明善46会として登録されている。最初の頃は、半年に1回同期会をやり、飽きてきた頃からは年1回としていたが、ここ数年は、春宴会版、秋1泊旅行を楽しんでいる。春は、ビール工場見学プラス東京競馬場VIPルームでの競争観戦後の宴会。新宿末広亭での寄席観戦後宴会。平和島競艇VIPルームでの観戦後宴会と企画ものを入れるようにしている。旅行も、鬼怒川、伊東、老神、別所、軽井沢、犬吠埼、磐梯熱海と続いている。

日本経済が落ち込み、皆仕事の上で大変な状況が続いているし、子育てが終わったといつて集まっていた女性陣も今度は介護が始まった。人生の浮き沈みを経験し、落ち着いた人物も出てきたし、現在格闘中の者もいる。昔を思い出したくないと、連絡を拒否する者もいる。皆が皆楽しく過ごした訳ではないのが知れる。これからの同期会活動をどの様にするか思案の時である。

(46年卒 本村 龍史)

50歳を迎えての同窓会

昭和33年生まれだと去年、目出度く50歳を迎えたわけで、計6回の同窓会ラッシュに明け暮れていました。ただ52卒同窓会は去年四月、七月だったので少し間が空いてしまいました。今年三月に名古屋から四月に九州から同級生が東京に戻ってきたので、こちらで種をひきしめて五月あたり52卒同窓会を開催しようかと企画中です。

印象に残る同窓会は企画モノの同窓会です。東京デイズニerland同窓会では園内のOEGでフランス料理に舌鼓し、ワインでしこたま酔った筑後弁まるだしの田舎もんだが「ホーンテッドマンション」馬鹿騒ぎしたのも楽しい思い出です。「Watch with Me」卒業写真」同窓会では新宿バルト9で同級生たちと筑後川沿いの田園風景を懐かしく観ることができたのも、これまた楽しい思い出です。しかし企画モノはそう多くやれるわけでもありません。「温泉旅行でもするか」「那須の御用邸見学ツアーでもするか」と話題には出ますが、スケジュール調整が難しそ

うか」と話題には出ますが、スケジュール調整が難しそ

夢に見た関東同窓会

人生の折り返し50歳を過ぎ、さらなる思い出作りの同窓会にしたいと願う。関東地区の同期会は20余名が集う会を2回のペースで開催中である。

昨年11月16日、早めの忘年会を兼ねた同窓会を吉祥寺にて開催、幹事は新留君、鐘ヶ江さんにお世話頂いた。最近の趣向を凝らし幹事の推薦する地にて開催が多く、前回6月の横浜にて船の行き交う港を望む場所での開催から、今回も都心の雑踏を離れ多少のんびりとした気分となつてきた感じがする。

51年卒は2年後、平成23年秋の大同窓会の幹事役を控えており、久留米の同窓会も開催準備に向けて動き出した。このため、久留米より明善51会の小手川会長、福田渉外広報委員長の名も駆けつけてくれた。実は久留米以上に関東同窓会の活動が活発であり、小手川会長も同級生と再会、「夢に見た関東同窓会」にぜひ参加し、久留米での活動に生かしたいとの念願が叶った。久留米と関東の同期会の結束を深めることができ、2年後に向けた体制作りも進んだものと思う。一方、福田委員長は、昨秋開催の明善大運動会を紹介すべく自ら撮影したビデオを持参しての参加、幹事のわか作りの模造紙スクリーンを宴席に持ち込み鑑賞会となった。昔と変わらぬ応援合戦、騎馬戦などの出し物、昔に比べてスマートフォンで多少垢抜けた感じもしたが、全員食いついたように見えた。30余年前の大運動会を思い出した。青春時代が蘇った瞬間でもあった。吉祥寺と言えは井の頭公園、終了後は初冬の公園へ移動、散策しながらさらに昔話に浸った。

(51年卒 内田 直人)

で当分先しようかと思つています。先輩諸氏の旅行を兼ねた同窓会を参考に念入りに企画していくつもりですが、取りあえずはお茶漬け感覚の軽い同窓会がいいかなと思つている次第です。

52卒同窓会は携帯電話で久留米の同級生を呼び出して無理やり参加させます(たまに事前アポしている場合もありますが)。これはまた逆の場合もあるわけで、携帯電話の鳴る音、「おっあいつだ」・すぐに「元氣しとんね」の声、酔った同級生達と入れ替わり立ち代り話をしながら、自宅であればこつちも飲むかと焼酎を一杯ぐつとひっかけます。アドリブ参加もなかなか面白いものです。一度、久留米と東京で同日開催するかどうかというのを考えているところですが、三十年前には想像も出来なかった携帯電話と言う便利なツールがあるので場所が離れていても臨場感あり、一体感あり、プロ野球ペンタがかかった試合によくある二元中継みたいな同窓会も企画していきたいと思つています。

(52年卒 池田 和也)



### 新旧幹事団ご苦勞様

#### 「いやあ、ホツとした。」 関東同窓会 幹事団報告

55卒同期が集まって動き出したのが、なんと5月12日。そこから何とか体裁を整えるべく、バタバタしながら当日を迎えて、終わった直後のこれが素直な感想でした。

会場等はすでに前年より予約していたらいいもの、講演者を誰にするのか、これが大きな関門。当時担当していたダイハツ工業の白水会長が明善卒であるという「噂」を聞きつけ、秘書に確認。ダイハツの役員ですら時間を取れない白水会長に面会できたのが6月11日で、1時間もたつぷり話をした挙句、その場で快く承諾いただいたのが、とても嬉しく、それまであまり想いもなかった「明善のつながり」を感じ、強烈に心に残りました。

仕事柄、普段はイベント運営に関してもそんなに心配しないのに、今回はドキドキも。何とかやりこなせたのは、やはり「同期のつながり」が大きかったと思います。

諸先輩にもとてもお世話になり、関東支部幹事会にも2回の報告しかせず、代表幹事の瀬戸さんをはじめ、幹事の皆様にご心配をおかけしたことは、いまだに反省至極です。また、「是非、大同窓会にも来い！」と声を掛けていただいた大同窓会幹事の田中先輩の急逝は本当に残念でした。

今、とても思うことは、この「明善つながり」ということの大きさ。昨年の今頃までは明善卒であることなど、ほとんど意識しなかったのが、この大きなイベントをやらせていただいたことで、今や誇りにも思えるようになったということ。この会を通じ、同期のみならず、先輩、後輩の方々と「和」を掛けられたことに、深く感謝しています。

昨年はその「つながり」が嬉しくて、それまで見向きもしなかった「大同窓会」まで遠征しました。

これから自分がどれだけ役に立てるかわかりませんが、僕の感じた「明善つながり」での感動を、少しでも多くの明善卒の皆様にも感じてもらえたらと思っています。よろしくお願ひします。

(55年卒 伊東 美晃)

#### 今年の総会担当は私達で

思えば10年ほど前に関東支部同窓会に参加した時に47歳になる年に幹事が回ってくるぞうだ・ふん、とまだまだ先のこととして聞いてはいました。が、漠然とした不安は頭のすみにくもの果のように残っていました。

月日は流れ、いつしか不安も薄れ、あと何年かなと思っ

ている時に同窓会会報と共に総会実行委員就任依頼の白紙(?)が来てしまったのです。また、昨年の引継式に出席したのは宮丸郁子さんただ一人だったことも知りました。一人でこの会を引き受けてしまった宮丸さん……。彼女



一人に重荷を負わせるほど度胸の座っていない私達は、ここで初めて56会として発足しました。

久留米に帰省した時は友達と会うことはあっても、お互いの生活の忙しさで東京ではほとんど集まったことはありませんでした。28年ぶりの顔ばかりが、顔を合わせると同時に、互いのおじさん、おばさんの顔の奥に潜む18歳の時の面影にすっかり入り込み、これは何としてもこの年度を乗り切るしかないと思つた私達でした。

とはいえ、何をすればいいのか皆目わからない私達に、手取り足取り教えてくださる先輩方のおかげで何とか船出し、毎日連絡メールの山と格闘し、これを書いている時はまだ道半ば、といったところで。先輩方から引き継いだたすきを次の学年にしっかりと渡せるよう、関東支部総会を成功に導くべく、皆でどたばたと準備しています。おかげでいっ

きに28年の歳月を吹き飛ばし、総会が終わっても56会として楽しく存続していけるという確信を持つに至っています。

最後に、今年の私達の轍を踏まないよう、57年卒の皆さんが一人でも多く集まってくれるよう心から願っています。

(56年卒 秋永 佳世)

#### 創部111周年の対決 明善・秋田高校野球部

高校野球の黎明期より活動開始した明善高校ならびに秋田県立秋田高校は両校共に、昨年野球部創部111周年の伝統校である。また両校共に校是が「文武両道」と、遠く離れた地に似たような高校があった。この縁を知った明善野球部OB会「明球会」関東支部の本村会長、別府先輩のご尽力により、両校の記念すべき親善試合を平成20年11月22日(土)、東京大学野球場にて開催し、両校野球部OBの親善を深めた。秋田高校は甲子園出場24回の強豪、明善高校は戦前に2回出場(ただし1回は米騒動で中止)、秋田高校の胸を借りる対決となった。

明球会からは、大学生から70歳台まで30名近い参加者が臨んだ。スタンドには女性含め多くの応援団、また久留米からは古賀校長も駆けつけられた。ユニホームも創部時代のクラシック調にて新調した。白地に朱色で「明善」の文字の伝統のユニホーム、現役時代の感触に立ち戻った瞬間であった。試合に当たり、使用球を硬球とするか、安全を見込み軟球とするか議論があったようである。OB諸氏は硬球で現役時代の再現を願ったはずであるが、ここは安全と投手の負担を考慮軟球となったようである。

(51年卒 内田 直人)

#### 明善VS秋田 野球部OB親善試合観戦記

11月22日(土)、風もなく、雲ひとつない絶好の野球日和の下、文京区弥生の東大野球場において、往年の迷選手たちが集い、初めての親善試合が行われた。

明善約26名、秋田13名の選手たちがホームベース付近に集合し挨拶をし、古賀俊一明善高等学校長の始球式の後、13時40分プレーボールが宣された。

応援は、我が明善37会のメンバー8名の他女性を含む20名弱、一方秋田は10名ほどであった。

また、取材には西日本新聞・秋田魁朝日新聞・九州朝日放送などが来て、KBCのテレビカメラの撮影もあり、本日17時30分に放映されるという事であった。

試合は明善の先攻で始まり、秋田先発の左腕伊藤敬(S55卒)の好投により3回をパーフェクトに抑えられた。

一方、明善は我が白球王子こと草場正登の先発で1回は無難に切り抜けたが、2回ノーアウトからサードの失策により出塁した走者が5番のセンタースタールの三塁打により生還し先制点を許し、7番のセンター犠牲フライにより追加点を上げられた。更に3回は味方の失策がらみで3点目を許したが、3回を被安打1、四球1、奪三振2で失点は3だが自責点は1という立派な力投であった。

その後、明善は小刻みな継投により4回に2、6回に1、8回に1の計失点7であった。

明善の攻撃は、秋田の2番手投手小玉正志(S54卒)に4・5回と3人づつで片付けられ、このままパーフェクトに抑えられるかという状況であったが、6回先頭打者7番久保田葉(S62卒)の左中間を破る二塁打と8番久光正俊(S62卒)の三遊間連続安打を足場に2点を反撃し、ベンチ・応援席も大いに盛り上がった。しかしその後9回の1点を追加するのがやつとで、残念ながら3-7Xで惜敗した。時は15時28分であった。

試合終了後は、両校で銀座八丁目に繰り出し、乾杯の後、両校選手の紹介・挨拶があり、歓談しこれも大いに盛り上がった。更に両校の校歌・応援歌のエイ交換をし、来年の再試合を約し、20時30分に散会した。

熱く燃え、爽やかに交歓した明善VS秋田のOB親善野球大会であった。

(37年卒 原田 幸治)

また、取材には西日本新聞・秋田魁朝日新聞・九州朝日放送などが来て、KBCのテレビカメラの撮影もあり、本日17時30分に放映されるという事であった。

試合は明善の先攻で始まり、秋田先発の左腕伊藤敬(S55卒)の好投により3回をパーフェクトに抑えられた。

一方、明善は我が白球王子こと草場正登の先発で1回は無難に切り抜けたが、2回ノーアウトからサードの失策により出塁した走者が5番のセンタースタールの三塁打により生還し先制点を許し、7番のセンター犠牲フライにより追加点を上げられた。更に3回は味方の失策がらみで3点目を許したが、3回を被安打1、四球1、奪三振2で失点は3だが自責点は1という立派な力投であった。

その後、明善は小刻みな継投により4回に2、6回に1、8回に1の計失点7であった。

明善の攻撃は、秋田の2番手投手小玉正志(S54卒)に4・5回と3人づつで片付けられ、このままパーフェクトに抑えられるかという状況であったが、6回先頭打者7番久保田葉(S62卒)の左中間を破る二塁打と8番久光正俊(S62卒)の三遊間連続安打を足場に2点を反撃し、ベンチ・応援席も大いに盛り上がった。しかしその後9回の1点を追加するのがやつとで、残念ながら3-7Xで惜敗した。時は15時28分であった。

試合終了後は、両校で銀座八丁目に繰り出し、乾杯の後、両校選手の紹介・挨拶があり、歓談しこれも大いに盛り上がった。更に両校の校歌・応援歌のエイ交換をし、来年の再試合を約し、20時30分に散会した。

熱く燃え、爽やかに交歓した明善VS秋田のOB親善野球大会であった。

(37年卒 原田 幸治)



#### 霧田清二君 彫刻の国展鑑賞会

5月9日(土)「国立新美術館」に明善37年卒の仲間的美女6人と野獣14人が集い、第83回国展に出品された彫刻「人は昔、魚だったのかも知れないね13」を鑑賞した。

作品はシリーズ3作目で、人間は赤ん坊の時母の胎内の羊水の中にいて、幼児になってからも水辺が好きであることなどから、太古の昔を連想し序々に魚から人間に変わっていく様をイメージしたもので、足は完成しているが指はま

だ分化していき、手は体から離れて出来始めていて、顔は完成間近というものであった。お腹のところには羊水のかわりに昨夜までの雨水が溜まっていた。どうも、ダーウィンの進化論に異を唱える積りらしい。(元談)

その他の作品を駆け足で鑑賞の後、銀座へと繰り出し毎年恒例の酒盛り、立川にある国営昭和記念公園に設置されている霧田作品「花咲く頃」の額入り写真の争奪ジャンケン大会などがあり、多に盛り上がった後に散会した。

(37年卒 原田 幸治)

#### 委員長の思い

##### ●2つのMがカギ

私は一九八〇年代の後半、サミュエル・ウルマンの「青春」の詩に出会った。彼が八十歳の誕生日に記念出版した「From the summit of years-four score」(八十歳の歳月の高みにて)に収めた一節が「How to stay young」である。それがリーダーズダイジェストの一九四五年十二月号の英語版に掲載され、政財界人の中で座右の銘として愛誦されてきたという。

日本では、岡田義夫氏(当時の東京高工、現在の東京工業大学)が格調高い散文詩に翻訳。Sウルマンの「青春の詩」に私も感動し、勇気づけられたものだ。

その一節(青春とは人生の或る期間を言うのではなく心の様相を言うのだ。…年を重ねただけで人は老いない。理想を失う時に初めて老いがくる。…)

野田市は市制五十周年を記念して、二〇〇〇〜〇一年にかけて多彩な行事を展開そのフィナーレに「川への賛歌」を歌い上げた。(第九合唱)と(筑後川)。筑後川は明善の先輩詩人の丸山豊の作詞に、久留米との縁が深い團伊玖磨が作曲。阿蘇から有明海へ注ぐまでの大抒情詩の組曲。(筑後川)は混声合唱組曲としてつとに有名だ。

折しも合唱組曲(筑後川)は二〇〇九年十月東京都江戸川区総合文化センター大ホールで歌うことになる。暗譜で合唱するメンバーを募集、私も参加するつもり。

私はかつて、Sウルマンの「青春」の一節を賞状に添えてきた。近年は、いかなる組織・団体活動でも、方針・政策がどのような討議の過程を経て決定し、運営実施するに至ったか。誰にでもその様子が見え(透明性、公開性)、きちんと説明できたか(説明責任)アカウンタビリティ)、そしてどんな事態、結果を生んだか。その結果に対して、どんな覚悟責任を負ったか(そのように心がけている。それが無視されたら、ときに怒ることもよき市民のつとめだと考える。

●ミッションとメッセージ

コミュニケーション力が問われているのに、その対応が鈍い。どのような役割を担い、その任務、使命、誰に何を伝えるのか。ミッションとメッセージとの共通要素を探ることも欠かせない。

誰に何を伝えるか。その企業、事業、団体の役割、使命、目的は何か。ミッションとメッセージとの間には、このような相互作用が働く。その関係を上手に関連付けることも必要だ。

(会報委員長 29年卒 妹川 徳太郎)

